

発問教科書の挿絵を見て、スイミーとは何のことだと思いますか。

※はじめと最後のページの挿絵を比べて、話の全体をつかむ。

＜設定＞魚の きょうだいたちと楽しく暮らすスイミー

発問スイミーはどんな魚だと思いますか。（スイミーの紹介）

↓ およぐのが速い魚 小さな魚、黒い魚

からすがい…約二十五センチの湖や池などに生息淡水貝

…は、スイミー。…体言止めを使い、登場人物を印象付ける。

＜展開＞山場＜まぐろに仲間を飲み込まれ、かなしかったが、

海のすばらしいものを見て、元気を取り戻すスイミー

ある 目…場面がかわることを意味する。

ミサイルみたいに…たとえることで、恐ろしさや速さを想像しやすくしている。

一ぴき のこらず・にげたのは スイミーだけ。…スイミー

が「一匹になった」ことや「かなしさ」を強調するために同じ内容を二回述べている。

発問なぜ、スイミーは元気をとりもどすことができたのですか。

くらい うみ…スイミーの心情（怖い・寂しい・悲しい）

⇕比較することで場面の移り変わりを意識できる。

おもしろい もの スイミーの元気になる理由

比喩表現、倒置法、体言止めを用いることで、スイミーが見たおもしろいものを印象付けるようにしている。

にじいろの ゼリー…きれいさ やわらかさ

水中ブルドーザー…力強さ

見えない 糸で ひっぱられている。…同じ場所を繰り返

し行き来している様子を表す

ドロップみたいなの…色のあざやかさ たくさんある

こんぶや わかめの 林。…並んでたくさん生えている

うなぎ…倒置法で、全体像を先に見せることでどこに焦点をあてて想像するか読む人に考えられるようにしている。

もみいろの やしの 木みたい…きれいさ

スイミーは 見つけた、…きょうだいたちを。…場面二と比較してリズムよく音読することで、スイミーの喜びを想像することができ

おもしろい もの…場面三で見つけたもの

発問スイミーは見つけた魚のきょうだいにおもにういものとして何を一番に紹介したと思いますか。

発問スイミーは何を見たとき、一番うれしかったのだろうか。

↓新しい魚のきょうだいを見たとき↓声をかけているから

へ結末へ新しい魚のきょうだいと力を合わせてマグロを追い出すスイミー

発問なぜ、スイミーは大きな魚を追いかけることができたのですか。

↓スイミーがいろいろ、うんと考えたから

↓魚のきょうだいのはなればなれにならなかったから

↓魚のきょうだい、もちばをまもったから

↓スイミーが目になったから。

発問はじめのページの挿絵と最後のページの挿絵を比べ、大きな魚を追いかけるためには、何が一番大切なのだろうか。

↓魚のきょうだい、もちばをまもること。↓もち場を守るとは、友だちの気持ちを考えて、協力することだから。

一ひろい うみの どこかに ちいさな さかなの きょうだいたちがたのしく くらしてた。

みんな あかいのに、一ぴきだけは からすがいよりも まつくる。およぐのは だれよりも はやかった。

なまえは スイミー。

二ある 目、おそろしい まぐろが おなか すかせて すごい はやさで、ミサイルみたいに つつこんで きた。一口で まぐろは ちいさな あかい さかなたちを、一ぴきのこらず のみこんだ。

にげたのは スイミーだけ。

スイミーは およいだ、 くらい うみの そこを。

こわかった、 さびしかった、 とてもかなしかった。

三うみには、 すばらしい ものが いっぱい あった。おもしろい ものを みる たびに スイミーは だんだん げんきを とりもどした。

にじいろの ゼリーのような くらげ。

水中ブルドーザーみたいなの いせえび。

見たことのない さかなたち。見えない 糸で ひっぱられている。

ドロップみたいなの いわから 生えている、 こんぶや わかめの 林。

うなぎ。かおを 見る ころには、 しっぱを わすれてるほど ながい。

そして、 かぜに ゆれる もみいろの やしの 木みた いな いそぎんちやく。

四そのとき、 いわかげに、 スイミーは 見つけた、スイミーのと そつくりの、 小さな さかなの きょうだいたちを。

スイミーは いった。

「出て こいよ。 みんなで あそぼう。 おもしろいものが いっぱいだよ。」

小さな 赤い さかなたちは こたえた。

「だめだよ。 大きな さかなに、 たべられて しまうよ。」
「だけど、いつまでも そこに じっと してる わけには いかないよ。 なんとか かんがえなくちゃ。」

スイミーは かんがえた。 いろいろ かんがえた。 うんとかんがえた。

五それから とつぜん スイミーは さけんだ。

「そうだ。みんな いっしょに およぐんだ。 うみでい

ちばん おおきな さかなの ふりして。」
スイミーは おしえた。 けっして はなればなれに ならない こと。 みんな もちばを まもる こと。

みんなが、一ぴきの 大きな さかなみたいに およげる ように なった とき、スイミーはいった。

「ぼくが、 目に ならう。」

あさの つめたい 水の中を、ひるの かがやく ひかりの中を、みんなは およぎ、 おおきな さかなを おい出した。